

# 伊豆倉 ゆうた いずくら雄太県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13 電話043(227)7411

## 子育て世代を代表して登壇

### 学力向上へ取り組み求め!

33歳という若さを武器に県議1期目ながら、9月定例県議会の一般質問に早くも2度目の登壇を果たした市原市選出の伊豆倉雄太(いずくら・ゆうた)県議は、自らが子育て世代の代表として、県教育委員会に対し小中学生の学力向上にどう取り組むのかなどと、教育問題を最初に取り上げました。また、安全・安心を確保するため、防犯ボックスによる地域の防犯力向上を訴え、合わせて警察官の増員も要望しました。答弁に立った森田知事は、防犯ボックスについて、「地域住民と一体となって、防犯意識を高めていくことが重要」などと答えました。伊豆倉県議の質疑を特集しました。

#### 学力向上交流会

伊豆倉議員 「教育は国家100年の計」とも言いますが、時間がかり、なかなか目に見える結果の出てくれないものもありますが、将来を担うわが県の子供たちにとって、教育は非常に重要なものです。県として、小中学生の学力向上をどのように進めていくのか。

内藤教育長 県教育委員会は、子供たちの主体的な学びを支える取り組みや、授業力向上を図る取り組みなどから、「ちばっ子学力向上総合プラン」を策定し、さまざまな事業を進めています。

具体的には、退職教員等を学習サポーターとして、県内小中学校に派遣するほか、教員の授業力向上のため、県内すべての学校での授業を公開し、教員が相互に参観して学び合う機会を設ける授業改善の取

ツールを配信しています。県教委では、毎年、各事業の実践例や成果を報告する学力向上交流会を開催しており、今後もこうした機会を生かして県内小中学生の学力向上に努めてまいります。

#### 学習サポーター派遣

伊豆倉議員 学習サポーター派遣事業を今後拡充していく考えはあるのか。

内藤教育長 県教委では、本年度は、昨年度から15名増員し、180名の学習サポーターを小中学校に派遣しています。これにより、県内すべての市町村に配置しました。

派遣先の学校からは、授業中や放課後の学習支援など、個に応じたきめ細かな指導により、学力の定着に課題のある児童生徒への支援を充実させることができ、子供たちの学習意欲が向上し、学習

#### 遠距離通学の子供たち

伊豆倉議員 郡部へ行く

と学区が広く、学校まで直線距離で10キロ近く離れた場所から通学する子供もいます。児童生徒の遠距離通学について、県はどのように考えているのか。

内藤教育長 遠距離通学は、児童生徒の負担になるだけではなく、保護者にとっても事故の心配や経済的負担などが生じることから、県としても課題だと認識しています。県では、市



未来を担う子供たちのために質問する伊豆倉県議

#### 9月県議会一般質問から

また、国に対しても、補助制度の改善・充実を図るよう、全国都道府県教育長会議等を通じて要望しているところであり、引き続き働きかけを行ってまいります。

**要望** 人口減少に歯止めをかけ、地域の活性化を図っていくためには、子育て世代の経済的な負担軽減を図ることが重要です。その対策の一つとして、ぜひとも郡部の児童生徒の遠距離通学に対する県独自の支援の実施を検討するよう要望します。

●県政と市原市に関するご意見・ご要望をお聞かせください。

いずくら雄太 県事務所

〒290-0081 市原市五井中央西2-11-5  
TEL.0436-37-1777 FAX.0436-37-1331



# 地域の安全・安心のためは!

## 森田知事 住民と一体の取り組みを

### 防犯ボックス

**伊豆倉議員** 防犯ボックスを、より効果的に地域防犯力の向上に結びつけるためには、設置・運営主体である市町村のどのような取り組みが重要か。

**森田知事** 防犯ボックス事業の効果が高めるためには、警察官OBの勤務員が、自ら見守り活動を行うだけでなく、地域住民と一体となった取り組みを行うことで、防犯意識を高めていくことが重要です。

### 道路冠水への対策

**伊豆倉議員** 国道297号の市原市域において、集中豪雨等により道路冠水が発生しているが、県はどう認識しているのか。

**県土整備部長** 国道297号の市原市域では、JR内房線と立体交差している五井アンダーパス部、光風台駅入り口交差点付近、海士有木地先の新橋付近及び馬立地先の大宮神社付近の4か所が、道路冠水の発生しやすい箇所として認識しています。

このため、集中豪雨の際には、アンダーパス部や地形的に沿道から雨水が集まる箇所について、特に注意し状況把握に努めています。



再質問に立つ伊豆倉県議

**要望** 千葉県や京都では、携帯アプリを使って、道路等の不具合を行政に伝えるシステムがありま。県の職員だけで県管理の道路状況を把握することは難しいと思います。ま

などについて意見交換することにより、効果的・効率的な運営を支援してまいります。また、研修を行うことも検討しています。

**要望** 防犯ボックスへの県の補助は、設置後5年までと聞いていますが、市町村がその後も事業の実施を希望する際には、継続して連携を図り、勤務員への警察官OBの斡旋などの支援を要望します。

### 地磁気逆転地層

**伊豆倉議員** 市原市南部の加茂地区、養老川沿いに田淵の地磁気逆転地層があります。近年、国際標準地層としてゴールデンズパイクが打たれる可能性があるかと報道されています。国際標準地層の決定スケジュールはどうか。また、どのように決定されるのか。

**内藤教育長** 国際標準地層は、各国から提出された申請により、国際地質科学連合が決定するものです。申請時期は、これまで平成28年中とされていますが、平成29年5月以降に延期されたと聞いています。模式地の決定までには、国際地質科学連合の下部組織で議論や投票を重ねると聞いており、最終決定の時期については、示されていません。

**伊豆倉議員** 田淵地磁気逆転地層を県はどのように

た、状況をよく知っているのは、地元住民の方々です。多くは、豪雨等で不具合が生じたときに、土木事務所などへ連絡がいくと思いますが、日頃から地域住民との連携を持ち、道路管理を行っていただければと思います。

また、昨年、数十年に一度と言われていた災害が、数年単位でも発生しています。道路が冠水していれば、お年寄りなどは避難が非常に困難だと思います。日ごろの維持管理とともに、今後の抜本的な改善を期待しています。

**要望** 田淵の地磁気逆転地層にゴールデンズパイクが打たれても、打たなくても、観光資源等として県からのさまざまな支援をお願いします。

### 警察官増員を要望

**伊豆倉議員** 先の2月議会でも、警察官53人の増員について条例が改正され、必要な部署に配置されたと聞きました。それでもなお、警察官3人あたりの負担は、人口負担、刑法犯認知件数ともに全国ワースト上位にあります。安全で安心できる県民生活の確保という警察官の重点目標を達成するために、さらなる増員が必要だと思えます。警察官の増員について、県警はどのように考えているのか。

**警察本部長** 県警では、平成13年度から平成28年度までに2001人の警察官の増員が認められたところですが、しかし、これらの増員を得てもなお、議員指摘の通り、本県警察官1人

あたりの負担は、全国と比較して依然として重く、警察官は不足しているものと認識しています。

従って、引き続き業務の合理化、効率化に努めるとともに、本県に一人でも多くの警察官が配分されるよう、国に対し、更なる増員要求をしてみたいと考えています。

**要望** 市原市には、1署13交番と13の駐在所があります。この13交番の中でも激務なのが五井西口の駅前交番です。実際、駅前交番を訪ねても不在が多く、電話もなかなか繋がらない状況を経験した方も少なくありません。今後、警察官の増員が認められたら、業務多忙な交番に配置していただきたい。



森田知事(前列右端)に質問する伊豆倉県議